

市民参加型で活用方策

武田五一が設計 石黒ビル

尾張町1丁目

山野金沢市長が見学

明祥の発祥の地



石黒ビル(写真左)と内部を見学する山野金沢市長ら



近代日本を代表し、京大工学部建築学科を創設するなど関西で活躍した建築家・武田五一の設計で金沢市尾張町1丁目目にあり、1926(大正15)年に建てられた石黒ビルの見学会が行われ、19日には山野之義金沢市長が訪れた。

同ビルは薬問屋・石黒ファーマシー本社として建設。RC+S造(混構造)地下1階、地上4階建て延べ1097平方メートル。武田五一は、幾何学や曲線を生かした西洋的な装飾を施した。レストランやダンスホールなどがあり、戦前は市民の憩いの場として親しまれた。市内最古とされるエレベータも稼働中だ。医薬品や医療用機器卸売・明祥の発祥の地でもある。

見学会は歴史的な建物を市民に広く公開し、これからの活用方

策をともに考えようというもので、金沢工業大学の菅野圭祐研究室が主催し、真柄建設が協賛、石黒家などが協力した。菅野氏は「こうした建物が100年近くも残っていることが奇跡。そのこと自体も大きい。建築文化として、観光資源としての価値もある。いろんな人たちの関わり、絆で新しい保存の仕方、使われ方を見い出して

「公開イベントに感謝」

所有者実孫の石黒巨さん



ビル所有者の実孫で明祥に勤務する石黒巨さんは、「この建物は壊そうと思う度に『壊してはいけない。貴重な財産だ』と言われ続けてきた。今回、こう

いきたい。市民の思いや愛着とうまく調和できる活用に期待したい」としている。

19日の見学会には菅野研究室、オーナーの石黒家、建物調査を担当した五井建築研究所の喜多孝之代表取締役らが参加。建物概要を説明した。

ビルの見学を終えた山野市長は「屋上にビアホールがあったり、地下にも採光の工夫が見られるなど、人の生活感を大切にされてきた様子がうかがえ、素晴らしいものがある。今後、専門家の助言を頂きながら、市としてどんな関わりができるのか検討していきたい」と述べた。

してビルを市民に知ってもらおう見学会イベントが企画できたことに感謝したい」と述べ、今後の活用方策には「どうしたらいいのか。単発でなく、永続的に活用できるよう、様々な角度から1年ぐらい時間をかけて考えていきたい」と期待を寄せている。